

平成 22 年度
奈良県における石綿の健康リスク調査報告書

平成 23 年 3 月
奈良県

平成 22 年度
奈良県における石綿の健康リスク調査報告書

目次

1. 目的	1
2. 内容	1
(1) 調査対象者	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査内容	1
(ア) 保健所における確認	1
(イ) 指定医療機関における検査	1
(ウ) 指定精密検査医療機関による精密検査	1
(エ) ニチアス・竜田検診受診者	2
(オ) 読影による確認	2
(カ) 検査結果	2
3. 平成 22 年度調査結果	2
(1) 調査協力者数	2
(2) 調査協力者の受診状況	3
(3) 調査対象者の医学的所見・ばく露歴	4
4. ばく露歴と画像所見に係る集計表 (奈良県)	6
5. 参考資料	34

1. 目的

平成 18 年度から、一般環境を経由した石綿ばく露による健康被害の可能性があった地域において、石綿取扱い施設の周辺住民に対して、問診、胸部 X 線検査、胸部 CT 検査等を実施することにより、石綿ばく露の医学的所見である胸膜プラーク等の所見の有無と健康影響との関連に関する知見を収集した。

平成 22 年度からの第 2 期石綿の健康リスク調査（平成 22 年度～平成 26 年度の 5 年間で予定）においては、対象者数を大幅に増加させるとともに、毎年の検査（年 1 回）や健康状況の確認を確実にを行うことにより、石綿ばく露の状況の違い等による石綿関連所見や石綿関連疾患の発生状況の比較等を行い、石綿ばく露者の中・長期的な健康管理のあり方を検討するための知見を収集する。

奈良県においては、平成 19 年度から実施しているが、平成 22 年度においても引き続き実施することにより、石綿ばく露の状況の違い等による石綿関連所見等の集計を行い、周辺住民の健康管理に資する。

2. 内容

(1) 調査対象者

原則として、次の①～③を満たす者を調査対象者とした。

- ① 平成元年以前に、奈良県に居住していた者
- ② 奈良県が検査を実施する指定医療機関等で検査を受けることができる者
- ③ 本調査の内容を理解し、調査の協力に同意する者

なお、①については、それ以外の者も石綿ばく露の可能性があれば受け入れることを妨げないこととした。

(2) 調査期間

平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで

(3) 調査内容

(ア) 保健所における確認

奈良県は、保健所（郡山保健所、葛城保健所、桜井保健所、吉野保健所、内吉野保健所及び奈良市保健所）において、調査対象者に対し、本調査事業の説明、調査協力に対する同意をとり、調査登録台帳に登録を行い、医師、保健師、看護師のいずれかにより問診を実施した。なお、同意書及び問診票は奈良県において 20 年間保存することとしている。

問診の結果、ばく露歴が確認された場合は、胸部 X 線検査、胸部 CT 検査を実施するための指定医療機関への受診券及び画像所見報告書を発行した。

調査対象者が、既に医療機関等で、胸部 X 線検査や胸部 CT 検査などの検査を受けている場合は、本人の承諾を得て、実施医療機関から診断の結果、画像の電子データ及びフィルムを入手した。

(イ) 指定医療機関による検査

奈良県が委託する指定医療機関は、調査対象者が検査を受診するに当たり、調査対象者から奈良県が発行した受診券及び画像所見報告書を受領し、胸部エックス線撮影、胸部 CT 撮影、1 次読影を行った。なお、胸部 CT 検査は、マルチスライス CT で行った。

ただし、平成 21 年度中に、石綿の健康リスク調査等で胸部 CT 検査を実施した者で、所見（(ウ) 画像所見①～⑧の所見）のない者については、胸部 CT 検査を省略することとした。

(ウ) 指定精密検査医療機関による精密検査

読影の結果、石綿関連疾患（中皮腫、石綿による肺がん、著しい呼吸機能障害を伴う石綿肺、著しい呼吸機能障害を伴うびまん性胸膜肥厚）が疑われた場合、奈良県が指定する指定精密検査医療機関等において、精密検査を実施した。

(I) ニチアス・竜田検診受診者

（株）ニチアス王寺工場及び竜田工業株式会社が、平成 17 年度以降に実施した周辺住民に対する検診（以下「ニチアス・竜田検診」という。）の受診者についても本調査でフォローすることとした。企業を通じ、本調査事業の説明文書を発送し調査への協力を求めた。調査協力に同意した者に対し、問診及び調査登録台帳に登録を行い、胸部 X 線、胸部 CT の画像の電子データ及びフィルムをニチアス・竜田検診実施機関である医療機関から入手した。

ただし、検査項目が不足する場合は、奈良県は不足項目分の受診券を発行し、指定医療機関にて検査を受けていただいた。

(カ) 読影による確認

実施した検査の胸部 X 線画像及び胸部 CT 画像の読影は原則として次のとおり実施し、画像所見①～⑧を確認した。

1 次読影として指定医療機関で胸部 X 線検査及び胸部 CT 検査の読影を実施し、2 次読影として、奈良県の専門家による読影を実施することにより、画像所見を確認し、読影チェックリストを作成した。なお、1 次読影及び 2 次読影を行う際は、撮影日からなるべく間を空けずに実施するよう努めた。

画像所見

- ① 胸水貯留
- ② 胸膜プラーク（限局性の胸膜肥厚）
- ③ びまん性胸膜肥厚
- ④ 胸膜腫瘍（中皮腫）疑い
- ⑤ 肺野の間質影
- ⑥ 円形無気肺
- ⑦ 肺野の腫瘤状陰影（肺がん等）
- ⑧ リンパ節の腫大
- ⑨ その他の所見（陳旧性結核病変など①～⑧以外の所見）

(キ) 検査結果

読影の結果については、文書により調査対象者に説明した。また、指定医療機関での 1 次読影の結果、異常が見つかった場合、奈良県は、指定医療機関と連携し、調査対象者に結果を至急通知するよう努めた。

3. 平成 22 年度調査結果

(1) 調査協力者数

問診、胸部 X 線検査、胸部 CT 検査を受診した者、及び指定医療機関以外で受診し、フィルムを提供した者は 463 名（うち新規協力者 110 名）であった。居住地別受診者数は、表 0 のとおり。

調査対象時期としている平成元年以前に奈良県に居住し、現在も奈良県に居住している者は 447 名、平成元年以前に奈良県に居住していたが、現在は居住していない者は 9 名、平成 2 年以降に奈良県に居住しはじめた者 7 名（平成 2 年以降に奈良県に居住していたが、現在は奈良県に居住していな

い者1名を含む)であった。

表0 居住地別受診者数(調査時の居住地)

市町村名	継続	新規	計	市町村名	継続	新規	計
奈良市	11	4	15	斑鳩町	131	25	156
大和高田市	3	1	4	安堵町	2	5	7
大和郡山市	9	3	12	川西町	2	1	3
天理市	1	3	4	田原本町	2		2
橿原市	6	4	10	上牧町	8	5	13
桜井市	2	4	6	王寺町	104	29	133
五條市	1	1	2	広陵町	7	4	11
御所市	3	3	6	河合町	9	3	12
生駒市	1	1	2	吉野町	2		2
香芝市	6	1	7	大淀町	3		3
葛城市	0	1	1	下市町	2		2
宇陀市	0	1	1	県外	9	4	13
平群町	6	2	8	合計	353	110	463
三郷町	23	5	28				

(2) 調査協力者の受診状況

主な受診医療機関は、奈良医療センター31.7%、奈良県立三室病院 20.5%となっている(表1)。調査協力者を男女別にみると、男性260名(56.2%)、女性203名(43.8%)であった。また、年齢階層別に調査協力者をみると、60~69歳が最も多く33.9%、次いで70~79歳が25.7%であった。

検査項目は、94.4%が胸部X線、胸部CT両方の検査を受診している。

表1 指定医療機関別受診者数

指定医療機関名	合計		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
奈良県立奈良病院	35	7.6%	22	8.5%	13	6.4%
奈良県立三室病院	95	20.5%	61	23.5%	34	16.7%
済生会奈良病院	31	6.7%	16	6.2%	15	7.4%
済生会中和病院	44	9.5%	23	8.8%	21	10.3%
奈良医療センター	147	31.7%	73	28.1%	74	36.5%
平成記念病院	58	12.5%	36	13.8%	22	10.8%
その他	53	11.4%	29	11.2%	24	11.8%
合計	463	100.0%	260	100.0%	203	100.0%

※その他は、胸部X線検査及びCT検査のいずれも実施せず、フィルム取寄せ(指定医療機関含む)により対応

※平成23年2月28日現在

表 2 - 1 年齢階層別受診者数

	合計		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
40歳未満	29	6.3%	16	6.2%	13	6.4%
40～49歳	54	11.7%	25	9.6%	29	14.3%
50～59歳	81	17.5%	37	14.2%	44	21.7%
60～69歳	157	33.9%	93	35.8%	64	31.5%
70～79歳	119	25.7%	73	28.1%	46	22.7%
80～89歳	23	5.0%	16	6.2%	7	3.4%
90～99歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	463	100.0%	260	100.0%	203	100.0%

※平成 23 年 2 月 28 日現在

表 2 - 2 検査項目別受診者数

受診内容	合計	
	(人)	(%)
問診+胸部 X 線+胸部CT	437	94.4%
問診+胸部 X 線のみ	25	5.4%
問診+胸部 CT のみ	1	0.2%
問診のみ	0	0.0%
合計	463	100.0%

※平成 23 年 2 月 28 日現在

(3) 調査対象者の医学的所見・ばく露歴

調査協力者のうち、平成元年以降に奈良県に居住しはじめた 7 名を除く 456 名（調査対象者）について集計した。

【今年度の画像所見と過去の最新所見との比較】

調査対象者のうち、過去に本調査に参加し所見が確認できている者 346 名について過去の最新所見と今年度の所見との比較を行った。

平成 21 年度の所見と今年度の比較ができた者は 263 名、同じく平成 20 年度の所見と比較できた者は 37 名、平成 19 年度の所見と比較できた者は 46 名であった。

比較の結果、新たな所見が認められた者は 99 名、所見に変化がなかった者は 186 名であった。

【ばく露歴分類】

調査対象者のばく露歴の状況によりばく露歴を分類すると、「ア」:85名(18.6%)、「イ」:34名(7.5%)、「ウ」:82名(18.0%)、「エ」:37名(8.1%)、「オ」:218名(47.8%)であった(B-2表)。

ばく露分類

ア：直接石綿を取り扱っていた職歴がある者

イ：直接ではないが、職場で石綿にばく露した可能性のある職歴がある者

ウ：家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者で、作業具を家庭に持ち帰ることなどによる石綿ばく露の可能性が考えられる者

エ：職業以外で石綿取り扱い施設や吹き付け石綿の事務室等に立ち入り経験がある者

オ：上記ア～エ以外のばく露の可能性が特定できない者（居住地や学校・職場等の周辺に石綿

取り扱い施設がある場合も含む)

【石綿関連所見について】(C-1表)

石綿関連所見(疑い含む)が認められた者は、132例(調査対象者の28.9%)であった。主な所見の内訳は、胸膜プラーク(疑い含む)126例(石綿関連所見が認められた者の95.5%)、肺野の間質影(疑い含む)10例(石綿関連所見が認められた者の7.6%)、びまん性胸膜肥厚(疑い含む)4例(石綿関連所見が認められた者の3.0%)、肺野の腫瘤状陰影4例(石綿関連所見が認められた者の3.3%)、胸膜腫瘍(中皮腫)疑い1例(石綿関連所見が認められた者の0.8%)であった。

石綿関連所見(疑い含む)が認められた者132例のうち、具体的なばく露歴が特定できない者は45例(34.1%)であった。主な所見の内訳は、胸膜プラーク(疑い含む)41例、肺野の間質影(疑い含む)4例、肺野の腫瘤状陰影(疑い含む)3例であった。

胸膜プラークの出現状況をばく露歴ごとにみると、「ア」で35名(97.2%)、「イ」で12名(100%)、「ウ」で30名(96.8%)、「エ」で8名(100%)、「オ」で41名(91.1%)であった。また、年齢階層別集計をC-2表に示している。

【具体的なばく露が特定できない者のプロットについて】

具体的なばく露歴が特定されない者218名の平成元年以前の奈良県内の居住地382ポイントのうち、地番が確定できた308ポイント(実人数212名)について、地図上にプロットした(D図)。

胸膜プラーク(疑い含む)が認められる者が居住していたポイントの58ポイント(全プロット数の18.8%)を市町村別にみると王寺町25ポイント、斑鳩町25ポイント、河合町3ポイント、三郷町2ポイントとなっている。

同じく、プラーク以外の所見がある者の居住していた135ポイント(全プロット数の43.8%)を市町村別にみると、王寺町64ポイント、斑鳩町47ポイント、三郷町9ポイントであった。

所見が認められない者が居住していた115ポイント(全プロット数の37.3%)は、王寺町52ポイント、斑鳩町43ポイント、奈良市5ポイントであった(D-1表)。

また、D-2表にプロットポイントを地区別に分類・集計した。

【医療の必要があると判断された者の経過について】

本年度の調査で肺がん等の疑いがあるとして精密検査の必要があると判断された者は4名であった。4名とも医療機関において精密検査を受診しており、うち1名が中皮腫と診断された。中皮腫と診断された者は、直接石綿を取り扱った職歴がある(E-3表)。

【その他】

本年度の調査は、第2期石綿の健康リスク調査としてのスタートの年であったので、調査協力者を増加させるため、調査協力のチラシを王寺町、斑鳩町の全世帯に配布した。

また、(株)ニチアス王寺工場及び竜田工業株式会社の企業が実施している周辺住民に対する検診の受診者に対して(過去に1回でも受診した者を含む)、企業検診の検査結果を情報提供または、調査協力(企業検診を現在受診していない場合)いただけるよう依頼し、受診者の確保に努めた。

4. ばく露歴と画像所見に係る集計表（奈良県）

A-1 表：2010 年度受診者一覧表（調査対象者）	p 7
A-2 表：2010 年度受診者一覧表（A-1 表以外の者）	p 2 3
B-1 表：平成元年以前に奈良県に居住していた者のばく露集計表	p 2 5
B-2 表：平成元年以前に奈良県に居住していた者のばく露及び年齢階層別分類表	p 2 6
C 表：平成元年以前に居住していた者に関するばく露歴と画像所見のクロス集計表	p 2 7
C-1：所見について	p 2 7
C-2：胸水貯留、胸膜プラーク、びまん性胸膜肥厚、肺野の間質影の所見が見られた者の年齢階層別分類表	p 2 8
D 図：ばく露分類が「オ（その他）」の者に関するプロット図	p 2 9
D-1 表：ばく露歴分類が「オ（その他）」の者とプロット数との関係表	p 3 1
D-2 表：ばく露歴分類が「オ（その他）」の者で胸膜プラークのプロット数がある町名別一覧表	p 3 2
E 表：石綿の健康リスク調査に参加し、医療の必要があると判断された者の診断経過について	p 3 3

ばく露歴と画像所見に係る集計表(奈良県)

A-1表:2010年度受診者一覧表(調査対象者):456名(平成元年以前に奈良県に居住していた者)

症例番号	性別	生年(西暦)	07年度所見	08年度所見	09年度所見	10年度所見の変化	10年度CT	最新の所見	ア.直接職業あり	イ.間接職業あり	ウ.家庭内ばく露あり	エ.立入・屋内環境ばく露あり	オ.その他	ばく露歴分類	備考(その他所見、特記事項等)	次年度の受診
1	男	1970代	なし	なし	なし	不変	○	なし				●		エ		
2	男	1930代	㊹	㊹	㊹	不変	-	㊹				●	●	エ	右横隔膜挙上、右下肺硬化性陰影、右肋骨折後変化	
3	女	1960代	なし	なし	なし	不変	○	なし			●		●	ウ		
4	女	1970代	なし	なし	なし	新所見	○	㊹					●	オ	乳腺の大きさに左右差を認める(左>右)	
5	女	1940代	㊹	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
6	男	1930代	㊲	㊲	㊲	不変	○	㊲				●		エ		
7	男	1940代	㊹	受診せず	受診せず	軽減	○	なし					●	オ		
8	女	1970代	㊹	受診せず	なし	不変	○	なし					●	オ		
9	男	1970代	なし	受診せず	受診せず	新所見	○	㊹	●				●	ア	右肺下野の線状影(炎症性瘢痕と考える)	
10	男	1930代	㊹	受診せず	受診せず	不変	○	㊹					●	オ	心陰影拡大	
11	女	1940代	㊹	受診せず	受診せず	不変	○	㊹					●	オ	左・右肺野に気管支拡張を伴う粒状影	
12	男	1940代	㊲、㊹	㊲、㊹	㊲、㊹	軽減	○	㊲、㊹		●				イ	肺気腫	
13	男	1940代	㊵、㊹	㊵、㊹	受診せず	不変	○	㊵、㊹					●	オ	両上肺野気腫性変化、胆石	
14	女	1940代	㊹	㊹	㊹	軽減	○	なし			●			ウ		
15	男	1940代	㊹	㊹	なし	新所見	○	㊹	●					ア	右肋横角鈍化、右肺底部瘢痕陰影	
16	男	1930代	㊸、㊹	㊹	㊹	不変	○	㊹				●	●	エ	心拡大	
17	男	1940代	㊲	㊲、㊷	㊲	軽減	○	なし					●	オ		
18	女	1950代	㊹	㊹	㊹	不変	○	㊹					●	オ	両肺尖部瘢痕陰影	
19	男	1930代	㊲、㊹	受診せず	受診せず	不変	○	㊲、㊹				●	●	エ	心拡大	
20	男	1930代	なし	なし	なし	新所見	○	㊲疑、㊹	●			●		ア	右肺尖中葉瘢痕影	
21	男	1930代	㊸、㊹	なし	なし	新所見	○	㊸、㊹			●		●	ウ	胆石	
22	女	1970代	㊷	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
23	男	1940代	なし	受診せず	受診せず	新所見	○	㊹				●		エ	左右肺のう胞	
24	男	1930代	㊹	なし	なし	新所見	○	㊹		●			●	イ	左肺・右中葉瘢痕陰影、肝がん治療(TAE)後	
25	女	1930代	㊷	なし	なし	新所見	○	㊹					●	オ	右中葉小結節	
26	女	1930代	なし	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
27	女	1960代	なし	なし	なし	不変	○	なし	●				●	ア		
28	男	1930代	㊹	受診せず	受診せず	不変	○	㊹		●			●	イ	右肺尖・左肺舌区瘢痕	

症例 番号	性別	生年 (西暦)	07年度 所見	08年度 所見	09年度 所見	10年度 所見の 変化	10年 度 CT	最新の 所見	ア.直接 職歴あり	イ.間接 職歴あり	ウ.家庭 内ばく露 あり	エ.立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ.その 他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度 の受診
29	女	1940代	②、⑦	②	②	不変	○	②		●	●		●	イ		
30	男	1960代	⑨	⑨	⑨	不変	○	⑨			●	●	●	ウ	右肺胸膜直下小結節 術後変化、右肺のう 胞、右肺尖異物術後 変化	
31	女	1930代	⑨	なし	なし	新所見	○	⑨	●					ア	右肺上葉小結節	
32	女	1930代	⑨	⑨	なし	新所見	○	⑨	●		●			ア	右肺中葉・右肺上葉 小結節陰影	
33	女	1920代	②、⑨	②、⑨	②、⑨	軽減	○	②			●		●	ウ		
34	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨			●			ウ	左S4すりガラス様陰 影、肺K疑い、Thin slice	
35	女	1950代	⑨	⑨	⑨	不変	○	⑨			●		●	ウ	左舌区小粒状影	
36	男	1940代	なし	なし	なし	新所見	○	⑤疑	●			●		ア		
37	女	1940代	⑨	なし	なし	新所見	○	⑨		●	●	●		イ	左乳房切除、右肺下 葉傍胸膜域の癒痕陰 影	
38	男	1940代	⑨	なし	なし	新所見	○	⑨		●				イ	肝のう胞、左腎のう胞	
39	女	1950代	⑨	⑨	なし	新所見	○	⑨					●	オ	右肺中葉癒痕	
40	女	1960代	なし	なし	なし	不変	○	なし		●	●	●		イ		
41	男	1930代	なし	なし	なし	不変	○	なし	●				●	ア		
42	男	1930代	⑨	なし	⑨	不変	○	⑨	●					ア	右肺上葉・左肺底部 癒痕	
43	男	1930代	⑨	⑨	⑨	新所見	○	②疑、⑨	●					ア	右上葉癒痕、左右腎 のう胞	
44	男	1930代	⑦、⑨	⑦、⑨	⑨	不変	○	⑨					●	オ	右肺小結節、肺気腫	
45	男	1930代	②、 ⑤、 ⑧、⑨	②、⑤	②、 ⑤、⑨	軽減	○	②疑、⑨	●				●	ア	右肋横角鈍化	
46	男	1940代	②、⑨	②	②	不変	○	②	●					ア		
47	男	1930代	⑨	なし	なし	不変	○	なし	●				●	ア		
48	男	1940代	⑦、⑨	⑦	受診せず	新所見	○	⑨		●				イ	右肺肺尖硬化像、左 肺上野のプラ	
49	男	1930代	⑨	⑨	なし	新所見	○	⑨	●					ア	左下葉S6気管支拡 張を伴う容量減少	
50	男	1940代	②	受診せず	②疑	不変	○	②疑	●				●	ア		
51	女	1940代	なし	受診せず	なし	不変	○	なし		●	●		●	イ		
52	男	1930代	②、⑦	②、 ⑦、⑨	②、⑨	軽減	○	②疑	●					ア		
53	男	1940代	⑨	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
54	男	1950代	②、 ⑦、⑨	②、 ⑦、⑨	②、⑨	不変	○	②、⑨					●	オ	左肋骨骨折後変化、 肝腫瘍疑い	
55	女	1950代	⑦	⑦、⑨	⑨	軽減	-	なし			●		●	ウ		
56	女	1930代	②、⑦	②、⑨	②	軽減	○	②疑			●	●		ウ		
57	男	1940代	⑨	⑨	⑨	軽減	○	なし	●					ア		

症例番号	性別	生年(西暦)	07年度所見	08年度所見	09年度所見	10年度所見の変化	10年度CT	最新の所見	ア. 直接 職歴あり	イ. 間接 職歴あり	ウ. 家庭 内ばく露 あり	エ. 立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ. その他	ばく露 歴分類	備考 (他所見、 特記事項等)	次年度の受診
58	女	1940代	㊟	なし	㊟	不変	○	㊟			●			ウ	両肺底部癒痕、胆 石・脂肪肝(精査)	
59	男	1940代	②、㊟	②、 ⑦、㊟	②、㊟	不変	○	②、㊟		●			●	イ	左肺下野硬化像、右 肺中葉癒痕、左下野 石灰化像	
60	男	1930代	②、 ⑤、	②	②	不変	○	②	●					ア		
61	女	1930代	㊟	㊟	㊟	不変	—	㊟					●	オ	両肺尖炎症性癒痕	
62	女	1930代	㊟	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	両側肺尖部癒痕	
63	男	1930代	②、 ③、⑥	②、 ③、 ⑥、 ⑧、㊟	②、 ⑥、㊟	新所見	○	②、③、 疑、⑥、㊟	●					ア	肺気腫	
64	男	1940代	受診せず	⑧、㊟	㊟	不変	○	㊟	●			●		ア	右肺門部リンパ節石 灰化	
65	女	1950代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
66	男	1930代	受診せず	なし	受診せず	不変	○	なし		●				イ		
67	男	1930代	受診せず	なし	なし	新所見	○	㊟				●	●	エ	右横隔膜挙上	
68	女	1940代	受診せず	㊟	受診せず	不変	○	㊟					●	オ	右肺S6小結節陰影、 右中葉・左舌区炎症 性変化	
69	女	1950代	受診せず	なし	受診せず	不変	○	なし					●	オ		
70	女	1940代	受診せず	㊟	なし	新所見	○	㊟			●		●	ウ	右下肺癒痕陰影	
71	男	1960代	受診せず	なし	受診せず	新所見	○	㊟				●	●	エ	右肺上葉5mm大ス リガラス	
72	男	1930代	受診せず	㊟	なし	新所見	○	㊟	●				●	ア	両側肺尖癒痕	
73	男	1960代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
74	男	1930代	受診せず	㊟	受診せず	新所見	○	②疑、㊟					●	オ	右肺中葉無気肺、左 肺下葉気管支拡張症	
75	男	1940代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	心拡大(手術痕)	
76	男	1940代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし			●		●	ウ		
77	男	1930代	受診せず	なし	㊟	不変	○	㊟	●	●			●	ア	右肺尖部の胸膜肥厚 (癒痕陰影)	
78	男	1940代	受診せず	㊟	受診せず	軽減	○	なし	●				●	ア		
79	男	1950代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし		●	●		●	イ		
80	女	1940代	受診せず	㊟	なし	新所見	○	㊟	●	●			●	ア	両側肺尖・右肺中葉 癒痕	
81	男	1960代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟	●				●	ア	両肺尖部胸膜肥厚、 左舌区・右肺尖癒痕	
82	女	1930代	受診せず	㊟	なし	新所見	○	㊟					●	オ	右中葉・左舌区癒痕 性変化	
83	女	1930代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	両側肺野癒痕、右肺 下葉(S10)5mm大の 小結節	
84	男	1930代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟	●				●	ア	左肋横角鈍化	
85	女	1950代	受診せず	②、㊟	②、㊟	軽減	○	②			●		●	ウ		

症例 番号	性別	生年 (西暦)	07年度 所見	08年度 所見	09年度 所見	10年度 所見の 変化	10年 度 CT	最新の 所見	ア. 直接 職歴あり	イ. 間接 職歴あり	ウ. 家庭 内ばく露 あり	エ. 立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ. その他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度 の受診
86	男	1950代	受診せず	②	なし	不変	—	なし					●	オ		
87	男	1930代	受診せず	②、 ⑤、⑨	②、 ⑤、⑨	軽減	○	②⑨		●		●	●	イ	肺気腫	
88	男	1930代	受診せず	②、 ⑤、⑨	②疑、 ⑤疑	軽減	○	⑨				●	●	エ	気管支壁肥厚、慢性 気管支炎示唆される	
89	男	1930代	受診せず	⑦、⑨	なし	新所見	○	⑨					●	オ	右中部・左底部胸膜 肥厚、右S3に小結節 影疑、左上葉石灰化	
90	男	1930代	受診せず	⑨	なし	不変	○	なし					●	オ		
91	男	1930代	受診せず	⑦、⑨	⑨	不変	○	⑨		●		●	●	イ	両肺尖癒痕、右肺上 葉1cm大の小結節、 右肺中葉1cm大と 1.5cm大の小結節影	
92	男	1920代	受診せず	②	②	不変	○	②	●					ア		
93	女	1960代	受診せず	⑨	受診せず	不変	○	⑨					●	オ	左肺舌区癒痕	
94	男	1940代	受診せず	⑨	⑨	不変	○	⑨	●					ア	左下葉癒痕性変化	
95	女	1960代	受診せず	⑦	⑨	軽減	—	なし					●	オ		
96	男	1920代	受診せず	②、⑨	②、⑨	不変	○	②、⑨					●	オ	胆のう結石、肝石灰 化	
97	女	1960代	受診せず	なし	受診せず	不変	○	なし			●		●	ウ		
98	男	1940代	受診せず	②、⑤	受診せず	新所見	○	⑨	●				●	ア	左肺上野胸膜腫瘍陰 影	
99	女	1950代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
100	女	1960代	受診せず	⑨	なし	不変	○	なし			●		●	ウ		
101	女	1950代	受診せず	⑨	なし	不変	○	なし			●		●	ウ		
102	男	1940代	受診せず	⑨	⑨	不変	○	⑨	●				●	ア	右肺尖部癒痕陰影	
103	女	1940代	受診せず	⑨	なし	不変	○	なし			●	●	●	ウ		
104	男	1930代	受診せず	なし	なし	新所見	○	⑨		●	●		●	イ	右肺尖胸膜肥厚、右 肺尖癒痕	
105	男	1930代	受診せず	⑨	なし	新所見	○	⑨	●	●				ア	甲状腺左葉腫瘍、胆 石、右S8・S9に小結 節	
106	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	／	○	⑨					●	オ	左肺陳旧性変化、両 肺中野炎症性癒痕	
107	男	1940代	受診せず	②、⑨	受診せず	軽減	○	②疑、⑨					●	オ	両肺尖癒痕	
108	男	1970代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし				●	●	エ		
109	女	1970代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
110	女	1950代	受診せず	⑨	⑨	不変	○	⑨	●				●	ア	両側上肺左舌区癒痕 陰影	
111	男	1940代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
112	女	1940代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
113	男	1940代	受診せず	なし	⑨	不変	○	⑨				●	●	エ	右肺尖部癒痕陰影	
114	女	1950代	受診せず	⑨	なし	不変	○	なし					●	オ		

症例 番号	性別	生年 (西暦)	07年度 所見	08年度 所見	09年度 所見	10年度 所見の 変化	10年 度 CT	最新の 所見	ア. 直接 職歴あり	イ. 間接 職歴あり	ウ. 家庭 内ばく露 あり	エ. 立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ. その他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度 の受診
115	女	1940代	受診せず	㊟	なし	新所見	○	㊟			●			ウ	脂肪肝	
116	男	1960代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし	●		●			ア		
117	男	1940代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし	●					ア		
118	男	1950代	受診せず	なし	なし	新所見	○	㊟	●				●	ア	両肺尖癒痕	
119	男	1930代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟				●	●	工	両側上肺癒痕陰影、 左S6すりガラス様陰 影、肝石灰化	
120	男	1940代	受診せず	㊟	㊟	軽減	-	なし	●				●	ア		
121	男	1930代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	右肺尖癒痕陰影、左 肺小結節	
122	男	1930代	受診せず	㊟	受診せず	新所見	○	㊟疑、㊟					●	オ	右肺中葉癒痕	
123	女	1930代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	両肺尖部胸膜肥厚 (炎症性癒痕)	
124	女	1950代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	右肺小結節影	
125	女	1950代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟			●		●	ウ		
126	男	1930代	受診せず	㊟、㊟	㊟	不変	-	㊟					●	オ	右肺中野炎症性変化	
127	女	1940代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	両肺尖陳旧性癒痕	
128	男	1930代	受診せず	㊟、㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	右下肺気管支壁肥 厚、右肺中葉気管支 拡張を伴う容積減少	
129	女	1950代	受診せず	なし	受診せず	新所見	○	㊟					●	オ	脂肪肝、肝のう胞	
130	女	1960代	受診せず	㊟	なし	不変	○	なし					●	オ		
131	女	1960代	受診せず	㊟	なし	不変	○	なし			●		●	ウ		
132	女	1930代	受診せず	㊟	なし	新所見	○	㊟					●	オ	左肺の肋横隔角鈍化 疑い	
133	女	1950代	受診せず	㊟	なし	不変	○	なし					●	オ		
134	女	1950代	受診せず	㊟	㊟	新所見	○	㊟、㊟			●		●	ウ	両肺(右中葉・左肺) の陳旧性変化	
135	男	1940代	受診せず	㊟、㊟	㊟	不変	○	㊟			●		●	ウ		
136	男	1960代	受診せず	㊟	受診せず	不変	○	㊟			●		●	ウ	右肺底部小石灰化陰 影	
137	男	1940代	受診せず	㊟	受診せず	不変	○	㊟					●	オ	両肺尖部癒痕陰影、 腎のう胞	
138	女	1950代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	微小結節右3ヶ所、 右肺尖のう胞、左肺 尖左肺底部癒痕	
139	女	1960代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟				●	●	工	脂肪肝	
140	女	1930代	受診せず	㊟	なし	新所見	○	㊟疑、㊟					●	オ	左肺尖硬化像	
141	女	1940代	受診せず	㊟	なし	新所見	○	㊟					●	オ	胆のう結石(主治医 診察)	
142	男	1930代	受診せず	㊟	受診せず	不変	○	㊟	●				●	ア	左中肺小結節、左肺 石灰化小結節	
143	男	1960代	受診せず	なし	なし	新所見	○	㊟					●	オ	左下肺硬化性陰影、 左舌区癒痕	
144	男	1940代	受診せず	なし	受診せず	不変	○	なし	●					ア		

症例 番号	性別	生年 (西暦)	07年度 所見	08年度 所見	09年度 所見	10年度 所見の 変化	10年 度 CT	最新の 所見	ア. 直接 職歴あり	イ. 間接 職歴あり	ウ. 家庭 内ばく露 あり	エ. 立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ. その他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度 の受診
145	男	1950代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟		●			●	イ	右肺肋横隔角鈍化、右肺胸膜炎疑い、右肺石灰化を伴う胸膜肥厚、左肺上野のプー、右水腎症	
146	男	1920代	受診せず	⑤、㊟	受診せず	軽減	○	㊟					●	オ	両肺上野に石灰化、右中葉に炎症像、右肺中野石灰化、右肺下野癒痕影疑い、両肺肺尖石灰化影、右肺中葉に炎症性変化	
147	女	1950代	受診せず	なし	なし	新所見	○	㊟					●	オ	左肺門リンパ節石灰化、左右肺尖部癒痕	
148	女	1940代	受診せず	㊟	なし	不変	○	なし					●	オ		
149	女	1940代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟			●		●	ウ	両肺尖部癒痕影、両側背中側重力効果と思われる濃度上昇	
150	女	1950代	受診せず	⑦、㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	左肺下野結節影、左肺下野硬化像、右肺中葉炎症性癒痕	
151	女	1950代	受診せず	⑦	なし	新所見	○	㊟					●	オ	右肺中野硬化像、両肺肺尖・右肺中肺野癒痕	
152	女	1930代	受診せず	②、㊟	②、㊟	不変	○	②、㊟			●		●	ウ	両肺尖中葉舌区癒痕	
153	男	1940代	受診せず	⑦、㊟	㊟	不変	○	㊟				●	●	エ	右肺不整形陰影、右肺尖部癒痕性陰影	
154	男	1940代	受診せず	②	②	新所見	○	②、㊟	●				●	ア	両肺尖の癒痕	
155	男	1940代	受診せず	②、㊟	②、㊟	不変	○	②、㊟				●	●	エ	肺気腫、両肺尖部癒痕陰影	
156	男	1940代	受診せず	②	②	新所見	○	②疑、㊟					●	オ	左右肺気腫	
157	男	1940代	受診せず	②、㊟	②、㊟	軽減	○	②疑					●	オ		
158	女	1950代	受診せず	⑦、㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	左横隔膜挙上、右肺尖部小石灰化、右肺中葉癒痕	
159	男	1940代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
160	男	1930代	受診せず	⑦、㊟	㊟	不変	—	㊟				●	●	エ	両上肺小結節	
161	男	1940代	受診せず	受診せず	㊟	不変	○	㊟				●	●	エ	左肺下野線状影、右肺中葉小結節影	
162	男	1950代	受診せず	受診せず	なし	不変	○	なし	●	●			●	ア		
163	女	1960代	受診せず	受診せず	㊟	軽減	—	なし					●	オ		
164	女	1950代	受診せず	受診せず	㊟	不変	—	㊟					●	オ	両肺尖部癒痕陰影	
165	男	1950代	受診せず	受診せず	なし	不変	—	なし					●	オ		
166	男	1940代	受診せず	受診せず	②疑、㊟	不変	○	②疑、㊟					●	オ	左下肺小結節影	
167	男	1930代	受診せず	受診せず	㊟	不変	—	㊟					●	オ	左胸膜癒痕	
168	男	1950代	受診せず	受診せず	なし	不変	—	なし					●	オ		
169	女	1950代	受診せず	受診せず	㊟	軽減	—	なし					●	オ		
170	女	1940代	受診せず	受診せず	㊟	不変	○	㊟					●	オ	右中葉癒痕影	
171	女	1940代	受診せず	受診せず	㊟	軽減	—	なし					●	オ		

症例 番号	性別	生年 (西暦)	07年度 所見	08年度 所見	09年度 所見	10年度 所見の 変化	10年 度 CT	最新の 所見	ア. 直接 職歴あり	イ. 間接 職歴あり	ウ. 家庭 内ばく露 あり	エ. 立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ. その他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度 の受診
172	女	1950代	受診せず	受診せず	㊹	不変	○	㊹					●	オ	両肺尖癒痕陰影、右肺S5・左肺S8小結節	
173	男	1950代	受診せず	受診せず	㊲、㊹	不変	○	㊲、㊹					●	オ	両肺尖のう胞	
174	男	1950代	受診せず	受診せず	㊲、㊹	不変	○	㊲、㊹					●	オ	右下葉小結節	
175	女	1950代	受診せず	㊹	㊹	不変	○	㊹					●	オ	左肺胸水貯留、左肺野腫瘍影疑	
176	男	1950代	受診せず	㊹	㊹	不変	○	㊹		●			●	イ	右肺下野石灰化、右縦隔リンパ節石灰化、側弯、右肺中葉炎症癒痕石灰化、右肺尖部のう胞	
177	男	1940代	受診せず	㊲、㊷	㊲疑、㊹	新所見	○	㊲、㊴	●	●			●	ア		石綿法認定
178	男	1980代	㊹	なし	なし	不変	○	なし	●					ア		
179	男	1950代	受診せず	㊷	㊹	不変	○	㊹					●	オ	右下肺S8の不整形陰影、両肺下野の癒痕影	
180	男	1970代	㊹	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
181	女	1930代	㊹	なし	なし	新所見	○	㊲、㊳、㊹					●	オ	右肺下葉(S6)小結節影、胆石(主治医相談)	
182	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹	●				●	ア	両肺上野プラ、右肺上野・左肺肺尖胸膜肥厚癒痕、癒痕(両肺肺尖・左肺舌区・右肺上野)	
183	男	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
184	女	1940代	受診せず	㊹	受診せず	軽減	○	なし				●	●	エ		
185	男	1970代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	両側肺尖のう胞、右後胸膜のわずかな肥厚(プラークとはいえない)	
186	女	1970代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし				●		エ		
187	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹	●				●	ア	両肺尖部癒痕	
188	女	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	右肺底部癒痕、右肺尖胸膜変化	
189	男	1930代	㊹	受診せず	受診せず	新所見	○	㊲疑、㊵疑、㊹					●	オ	心拡大、動脈硬化	
190	女	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊲疑、㊹	●				●	ア	乳腺石灰化(左右)	
191	女	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹		●			●	イ	両肺癒痕、右肺上葉微小結節影(6M後)、胆石(要精査)	
192	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹			●	●	●	ウ	右肺上葉癒痕様陰影、両側気腫性変化、右肺中葉炎症癒痕	
193	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	右S4小結節陰影、肺K疑	
194	男	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹	●				●	ア	左横隔膜挙上	
195	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹			●		●	ウ	左肺下葉小結節	
196	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹		●			●	イ	右中肺野石灰化影、右肺下葉石灰化結節影	
197	女	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
198	男	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	奇静脈派、右肺中葉小結節	

症例 番号	性別	生年 (西暦)	07年度 所見	08年度 所見	09年度 所見	10年度 所見の 変化	10年 度 CT	最新の 所見	ア. 直接 職歴あり	イ. 間接 職歴あり	ウ. 家庭 内ばく露 あり	エ. 立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ. その他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度 の受診
199	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②疑、⑨	●				●	ア	左板状無気肺疑い、 右肺中葉小結節	
200	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②、⑨		●	●		●	イ	右肺尖部炎症癒痕、 右肺下葉小結節	
201	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②、⑤、⑨	●				●	ア	網状影	
202	女	1930代	受診せず	②、⑨	②、⑨	不変	○	②、⑨			●		●	ウ	心陰影拡大	
203	男	1970代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
204	女	1970代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
205	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨					●	オ	右肺尖すりガラス様 陰影、左下すりガラス 様陰影	
206	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨					●	オ	右S5小結節	
207	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨					●	オ	右肺中葉・左肺舌区 癒痕	
208	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
209	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨					●	オ	両肺尖癒痕、左肺上 葉のう胞	
210	男	1920代	受診せず	⑨	受診せず	不変	○	⑨					●	オ	右肺上葉胸膜肥厚→ 炎症性癒痕	
211	男	1930代	②	②、⑦、⑨	②	不変	○	②					●	オ		
212	男	1940代	受診せず	⑨	受診せず	不変	○	⑨					●	オ	左肺舌区炎症性変化	
213	女	1920代	⑨	⑨	⑨	不変	○	⑨				●	●	工	食道裂孔ヘルニア	
214	女	1920代	⑦、⑨	受診せず	受診せず	軽減	○	⑨					●	オ	左肺上葉小結節、左 肺下葉炎症性変化→ 肺炎(要医療)	
215	男	1940代	⑨	受診せず	受診せず	不変	○	⑨					●	オ	両肺尖部のう胞、右 肺上葉石灰化	
216	女	1940代	⑨	受診せず	受診せず	軽減	○	なし					●	オ		
217	男	1940代	⑨	受診せず	受診せず	不変	○	⑨					●	オ	右肺炎炎症癒痕	
218	女	1950代	⑨	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
219	男	1940代	⑤、⑨	⑨	なし	不変	○	なし					●	オ		
220	男	1940代	⑨	なし	なし	新所見	○	⑨					●	オ	右肺下葉微小結節	
221	女	1940代	受診せず	⑨	なし	不変	○	なし					●	オ		
222	男	1940代	受診せず	⑨	なし	新所見	○	⑨				●	●	工	右下肺S9小結節	
223	男	1960代	⑨	受診せず	受診せず	不変	○	⑨					●	オ	心陰影拡大、左肺下 葉癒痕	
224	男	1930代	なし	受診せず	受診せず	新所見	○	②					●	オ		
225	女	1930代	②、⑤、⑨	受診せず	受診せず	軽減	○	⑤					●	オ		
226	男	1950代	②	②	②、⑨	軽減	○	②					●	オ		
227	女	1950代	なし	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
228	男	1930代	⑨	⑨	受診せず	不変	○	⑨					●	オ	両肺中下野炎症癒痕	
229	女	1940代	⑨	⑨	受診せず	軽減	○	なし					●	オ		

症例 番号	性別	生年 (西暦)	07年度 所見	08年度 所見	09年度 所見	10年度 所見の 変化	10年 度 CT	最新の 所見	ア. 直接 職歴あり	イ. 間接 職歴あり	ウ. 家庭 内ばく露 あり	エ. 立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ. その他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度 の受診
230	女	1970代	㊟	受診せず	受診せず	軽減	○	なし					●	オ		
231	男	1970代	㊟、㊥	受診せず	受診せず	軽減	○	㊟		●			●	イ	右肺上葉癒痕容積減少	
232	女	1940代	受診せず	㊢	㊢、㊥	軽減	○	㊢疑	●	●	●		●	ア		
233	男	1930代	受診せず	なし	受診せず	不変	○	なし					●	オ		
234	男	1950代	受診せず	㊢	㊢	不変	○	㊢			●		●	ウ		
235	男	1960代	㊟	受診せず	受診せず	軽減	○	なし					●	オ		
236	女	1930代	㊟	なし	なし	新所見	○	㊟					●	オ	左肺胸膜肥厚→炎症性変化	
237	女	1940代	㊟	なし	なし	新所見	○	㊟			●	●	●	ウ	肝腫瘍疑い(要精査超音波)	
238	男	1930代	㊢、 ㊥、㊟	㊢	㊢	新所見	○	㊢、㊟	●	●			●	ア	両肺下野炎症癒痕	
239	男	1940代	なし	受診せず	受診せず	不変	○	なし					●	オ		
240	男	1940代	なし	受診せず	受診せず	不変	○	なし					●	オ		
241	男	1940代	受診せず	㊢、㊟	㊢、㊟	新所見	○	㊥㊟	●			●	●	ア	両肺下野炎症癒痕	
242	男	1940代	㊢	㊢、㊦	㊢、㊟	軽減	○	㊢	●					ア		
243	男	1940代	㊟	なし	なし	新所見	○	㊟				●	●	エ	左上肺炎炎症癒痕	
244	女	1940代	㊨、㊟	㊟	受診せず	不変	○	㊟					●	オ	右S10の炎症癒痕、 脾臓の石灰化	
245	女	1940代	㊟	なし	なし	不変	○	なし			●			ウ		
246	男	1940代	受診せず	㊟	なし	不変	○	なし					●	オ		
247	女	1930代	㊟	㊥、㊟	㊟	軽減	○	なし					●	オ		
248	男	1920代	㊢、㊟	受診せず	受診せず	不変	○	㊢、㊟					●	オ	右上肺陳旧性炎症性 変化	
249	男	1930代	㊟	㊟	㊟	不変	○	㊟			●		●	ウ	開胸術後の変化	
250	男	1930代	㊢	㊢	㊢	新所見	○	㊢、㊟					●	オ	左肺舌区炎症癒痕	
251	女	1960代	㊦	㊦	なし	不変	○	なし					●	オ		
252	女	1950代	㊟	なし	なし	新所見	○	㊟					●	オ	両肺炎炎症癒痕	
253	男	1920代	㊢、㊟	㊢、㊟	㊢、㊟	新所見	○	㊢、㊦	●					ア		
254	男	1950代	なし	なし	なし	不変	○	なし		●				イ		
255	女	1930代	㊢、㊟	㊢	㊢	不変	○	㊢			●	●	●	ウ		
256	女	1950代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
257	女	1940代	㊟	㊟	なし	新所見	○	㊢疑			●		●	ウ		
258	男	1940代	㊢、㊟	㊢、 ㊦、㊟	㊢疑、㊟	不変	○	㊢疑、㊟		●	●		●	イ	胸膜炎後変化、右肺 下野炎症癒痕疑い、 左肺下野炎症癒痕	
259	男	1930代	㊟	受診せず	受診せず	新所見	○	㊢、㊟	●		●		●	ア	両肺炎陳旧性炎症性 変化	
260	男	1970代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし	●				●	ア		

症例 番号	性別	生年 (西暦)	07年度 所見	08年度 所見	09年度 所見	10年度 所見の 変化	10年 度 CT	最新の 所見	ア. 直接 職業あり	イ. 間接 職業あり	ウ. 家庭 内ばく露 あり	エ. 立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ. その他	ばく露 歴分類	備考 (他所見、 特記事項等)	次年度 の受診
261	男	1940代	②、⑨	受診せず	受診せず	軽減	○	なし					●	オ		
262	女	1950代	②、⑨	②	②、⑨	不変	○	②、⑨					●	オ	左肺下葉・胸膜下小結節	
263	男	1930代	②	②	②	不変	○	②					●	オ		
264	男	1940代	受診せず	⑨	受診せず	不変	○	⑨					●	オ		
265	女	1940代	受診せず	⑨	⑨	不変	○	⑨					●	オ	右肺下野陳旧性変化、右肺中葉・左肺上葉炎症癒痕、右肺上葉石灰化	
266	女	1960代	⑨	なし	なし	新所見	○	⑨					●	オ		
267	男	1950代	⑨	受診せず	受診せず	不変	○	⑨			●		●	ウ	両肺尖部のう胞性変化	
268	女	1950代	⑤、⑨	⑨	⑨	不変	○	⑨			●		●	ウ	両側上肺ブラ(肺のう胞)	
269	女	1960代	⑨	⑨	なし	新所見	○	⑨				●	●	エ		
270	女	1940代	②、⑨	受診せず	受診せず	軽減	○	②			●		●	ウ		
271	男	1950代	受診せず	⑦	⑨	不変	-	⑨	●				●	ア		
272	男	1940代	受診せず	⑨	⑨	新所見	○	②、⑨	●					ア	左大胸筋移植術後変化	
273	女	1950代	②、⑨	②	②	不変	○	②					●	オ		
274	男	1970代	なし	なし	なし	新所見	○	②疑					●	オ		
275	女	1940代	⑨	⑨	なし	新所見	○	⑨					●	オ	右肺下野網状影、右中葉散布性陰影	
276	男	1940代	受診せず	なし	なし	新所見	○	⑨		●			●	イ		
277	女	1940代	受診せず	⑨	受診せず	不変	○	⑨					●	オ	左肺上野癒痕	
278	女	1970代	受診せず	なし	受診せず	新所見	○	⑨					●	オ	肝右葉の腫瘍疑い	
279	男	1950代	なし	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
280	女	1970代	なし	受診せず	受診せず	不変	○	なし					●	オ		
281	男	1930代	受診せず	⑨	⑨	軽減	○	なし	●		●		●	ア		
282	男	1930代	受診せず	⑦、⑨	⑨	不変	-	⑨		●			●	イ	右下肺癒痕性変化	
283	男	1940代	受診せず	②	⑨	軽減	-	なし			●	●	●	ウ		
284	男	1960代	⑨	⑨	⑨	不変	○	⑨					●	オ	右大動脈弓	
285	女	1930代	②、⑨	受診せず	受診せず	軽減	○	②	●		●		●	ア		
286	女	1950代	⑦	⑦	なし	新所見	○	⑨	●		●		●	ア	左上肺胸膜肥厚	
287	男	1960代	⑤、⑨	⑤	⑤	新所見	○	⑨					●	オ	右肺下葉背側線状影	
288	女	1930代	②、⑨	受診せず	②、③疑、⑨	新所見	○	②、③疑、⑤、⑨		●	●		●	イ	右肺胸膜肥厚・石灰化、心陰影拡大、左肺枝状無気肺、右肺中葉等に炎症癒痕	
289	女	1960代	⑨	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
290	女	1960代	⑦、⑨	⑦	なし	新所見	○	⑨					●	オ	右肺上下葉間胸膜近傍小結節影	
291	女	1940代	⑨	なし	なし	新所見	○	⑨					●	オ	右肺中葉・肺尖・左肺舌区に炎症癒痕	

症例 番号	性別	生年 (西暦)	07年度 所見	08年度 所見	09年度 所見	10年度 所見の 変化	10年 度 CT	最新の 所見	ア.直接 職業あり	イ.間接 職業あり	ウ.家庭 内ばく露 あり	エ.立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ.その 他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度 の受診
292	女	1940代	㊟	なし	なし	新所見	○	㊟			●	●	●	ウ	左上肺胸膜肥厚、左肺舌区炎症癭痕	
293	女	1940代	㊟	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	両肺尖部・右肺中野炎症癭痕、胆のう石灰化疑い→受診すすめる	
294	男	1970代	㊟	受診せず	受診せず	軽減	○	なし					●	オ		
295	女	1940代	㉔、㊟	㉔、㊟	㉔、㊟	不変	○	㉔、㊟					●	オ	両肺背側陳旧性変化	
296	女	1960代	なし	なし	なし	新所見	○	㊟					●	オ	右肺炎症癭痕	
297	女	1940代	㊟	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	両側甲状腺石灰化→耳鼻科受診	
298	男	1940代	㉔、㊟	なし	なし	新所見	○	㉔疑、㊟					●	オ	両側肺尖部ブラ	
299	男	1950代	受診せず	㉔、㊟	㊟	軽減	—	なし					●	オ		
300	男	1950代	受診せず	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	右肺上野胸膜肥厚、左肺上野肺尖陳旧性変化、両肺尖癭痕像	
301	女	1950代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
302	男	1950代	受診せず	なし	なし	新所見	○	㊟					●	オ	左肺中野胸膜炎炎症性癭痕	
303	女	1930代	㊟	㊟	なし	新所見	○	㊟				●	●	エ	両肺肺尖癭痕影、左肺下野に結節影、両肺肺尖・右中葉・左舌区の炎症性癭痕	
304	男	1940代	㉔、 ㉓、㉕ ㉕、㉖	受診せず	受診せず	軽減	○	㉔、㉓、㉖			●		●	ウ	両肺尖・右肺中葉炎症癭痕、脂肪肝	
305	男	1970代	なし	なし	受診せず	不変	○	なし					●	オ		
306	女	1940代	受診せず	㉔、㊟	㊟	不変	○	㊟			●		●	ウ	左肺底部小結節、左肺舌区癭痕	
307	女	1940代	㉔、㊟	㉔、㊟	㊟	軽減	—	なし			●	●		ウ		
308	男	1930代	㉔、㊟	㉔、㊟	㉔	新所見	○	㉔疑、㊟		●			●	イ	心臓手術後、両肺下葉炎症癭痕	
309	女	1940代	なし	なし	なし	新所見	○	㊟		●			●	イ	左肺炎症癭痕	
310	女	1970代	㊟	㊟	㊟	不変	○	㊟			●		●	ウ	右上肺野背側に軽度の胸膜変化	
311	女	1940代	㊟	㊟	なし	新所見	○	㊟					●	オ	両肺中葉・舌区炎症性変化疑い	
312	男	1950代	㊟	㊟	㊟	不変	○	㊟					●	オ	左肺肺尖・下野癭痕	
313	男	1940代	㉔、㊟	なし	なし	新所見	○	㉔疑	●					ア		
314	男	1950代	㉔	受診せず	受診せず	不変	○	㉔		●		●	●	イ		
315	男	1930代	受診せず	㊟	受診せず	新所見	○	㉔、㊟	●				●	ア	両肺炎症癭痕	
316	男	1940代	受診せず	㉔、㉔	㉔、㊟	新所見	○	㉔、㉔疑、 ㊟					●	オ	右横隔膜小結節→2009.12月と比べ変化なし	
317	男	1930代	受診せず	㉔、㊟	㊟	軽減	—	なし					●	オ		

症例番号	性別	生年(西暦)	07年度所見	08年度所見	09年度所見	10年度所見の変化	10年度CT	最新の所見	ア.直接 職業あり	イ.間接 職業あり	ウ.家庭 内ばく露 あり	エ.立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ.その他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度の 受診
318	男	1950代	受診せず	受診せず	㊹	軽減	—	なし					●	オ		
319	女	1930代	㊹	受診せず	受診せず	軽減	○	なし			●		●	ウ		
320	男	1970代	なし	受診せず	受診せず	不変	○	なし					●	オ		
321	女	1940代	㊹	なし	なし	新所見	○	㊹			●			ウ	胆石、脾腫	
322	男	1940代	㊹	㊹	㊹	新所見	○	②、㊹	●					ア	両肺炎症性瘢痕	
323	女	1940代	⑧、㊹	㊹	㊹	不変	○	㊹	●				●	ア	左横隔膜炎症性瘢痕、左下肺炎症性瘢痕	
324	女	1960代	なし	なし	なし	新所見	○	㊹	●				●	ア	右肺中葉炎症性瘢痕	
325	女	1930代	㊹	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
326	女	1940代	②、⑦、㊹	②、⑦	②、㊹	新所見	○	②、⑦、㊹					●	オ	右肺石灰化を伴う良性腫瘍、胆石	
327	男	1930代	②、㊹	⑤、㊹	㊹	不変	○	㊹	●				●	ア	両肺底部スリガラス影	
328	女	1960代	受診せず	㊹	なし	新所見	○	㊹					●	オ	右肺中葉瘢痕	
329	男	1950代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし	●				●	ア		
330	女	1980代	受診せず	なし	なし	不変	○	なし			●		●	ウ		
331	女	1950代	受診せず	㊹	受診せず	不変	○	㊹					●	オ	右副腎石灰化	
332	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②疑				●	●	エ		
333	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②、㊹					●	オ	左右肺気腫	
334	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
335	男	1920代	受診せず	受診せず	①、③、⑤、㊹	軽減	○	②疑、㊹	●					ア	右肺石灰化胸膜肥厚	
336	女	1970代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
337	男	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
338	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹	●				●	ア	左肺尖部小結節影	
339	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹			●	●	●	ウ	両肺中下野炎症性瘢痕、両肺中下野線状影	
340	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹				●		エ	両肺尖部炎症性瘢痕、右肺葉間炎症性瘢痕	
341	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし	●			●		ア		
342	男	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	心陰影拡大(主治医相談)、肺線維症	
343	女	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②			●			ウ		
344	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②、㊹			●			ウ	右肺S6炎症性変化	
345	女	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
346	女	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
347	女	1970代	なし	なし	なし	新所見	○	㊹			●	●	●	ウ	左肺下葉瘢痕	
348	男	1930代	⑤、㊹	受診せず	受診せず	軽減	○	㊹				●	●	エ	右肺下葉術後瘢痕?、縦隔リンパ節石灰化	

症例番号	性別	生年(西暦)	07年度所見	08年度所見	09年度所見	10年度所見の変化	10年度CT	最新の所見	ア.直接 職歴あり	イ.間接 職歴あり	ウ.家庭 内ばく露 あり	エ.立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ.その他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度の受診
349	女	1940代	受診せず	㊹	なし	新所見	○	㊹			●		●	ウ	左肺舌区炎症癒痕、 右肺尖部小結節影	
350	男	1940代	受診せず	㊲、㊳	㊲、㊳	新所見	○	㊲、㊳、㊹				●	●	エ	両側肺尖部胸膜肥 厚、両側肺尖・左肺 舌区炎症癒痕	
351	男	1940代	受診せず	なし	なし	新所見	○	㊹					●	オ	肺門・縦隔リンパ節 石灰化	
352	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊲疑	●		●			ア		
353	男	1920代	受診せず	㊵、㊶、㊷	㊹	不変	○	㊹					●	オ	左前胸部胸膜肥厚の 出現、心のう膜肥厚 疑い	
354	男	1940代	受診せず	㊸、㊹	㊹	軽減	—	なし					●	オ		
355	男	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹			●			ウ	両肺尖のう胞	
356	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊲		●		●		イ		
357	女	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹			●			ウ	左乳腺結節影	
358	男	1970代	なし	なし	なし	新所見	○	㊹			●	●	●	ウ	右肺中葉癒痕、脂肪 肝	
359	男	1930代	㊺	受診せず	受診せず	新所見	○	㊹	●				●	ア	左下肺小結節陰影	
360	男	1970代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし				●		エ		
361	女	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	右肺上葉癒痕	
362	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし	●	●				ア		
363	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
364	男	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	側弯、脂肪肝	
365	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊲㊹	●		●		●	ア	前縦隔腫瘍疑	
366	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
367	男	1970代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
368	女	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
369	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊲疑、㊹			●		●	ウ	右肺上葉炎症癒痕	
370	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	右肺中葉軽度浸潤影	
371	女	1940代	なし	受診せず	受診せず	新所見	○	㊲疑					●	オ		
372	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊲、㊹					●	オ	左肺尖部炎症癒痕、 左右肺気腫性変化	
373	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊲疑		●				イ		
374	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	左上大静脈遺残疑い	
375	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	両肺肺のう胞	
376	男	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹		●				イ	右中肺野癒痕性変 化、右甲状腺腫瘍	
377	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	右肺尖癒痕、右肺下 葉小結節影	
378	女	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊹					●	オ	右肺中葉気管支拡張	
379	女	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし			●		●	ウ		
380	女	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	㊲疑			●		●	ウ		

症例番号	性別	生年(西暦)	07年度所見	08年度所見	09年度所見	10年度所見の変化	10年度CT	最新の所見	ア. 直接 職歴あり	イ. 間接 職歴あり	ウ. 家庭 内ばく露 あり	エ. 立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ. その他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度の受診
381	男	1970代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
382	女	1920代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②、⑨	●					ア	心陰影拡大、縦隔リンパ節石灰化、右肺中葉すりガラス影	
383	男	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし			●			ウ		
384	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②疑			●	●	●	ウ		
385	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②疑	●				●	ア		
386	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②、⑨					●	オ	左右肺小結節	
387	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨					●	オ	心拡大、右肺S6 5mm大 小結節	
388	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨					●	オ	両肺下野癒痕	
389	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
390	女	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②					●	オ		
391	男	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨					●	オ	両肺炎炎症性癒痕、左腎のう胞	
392	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②疑					●	オ		
393	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
394	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし			●			ウ		
395	男	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし			●			ウ		
396	女	1970代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨			●			ウ	右肺S8 4mm大小結節	
397	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
398	女	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし			●		●	ウ		
399	女	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし					●	オ		
400	男	1930代	②、⑦	②	②、⑨	不変	○	②、⑨			●		●	ウ	右肺小結節	
401	男	1920代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨				●	●	エ	左下葉すりガラス陰影	
402	女	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②				●	●	エ		
403	男	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨			●		●	ウ	右肺下葉すりガラス結節	
404	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②	●					ア		
405	男	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨				●	●	エ	両肺炎炎症性癒痕	
406	男	1940代	受診せず	なし	なし	新所見	○	②、⑨	●		●		●	ア	右肺中葉炎症癒痕	
407	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨	●					ア	右肺上野炎症癒痕	
408	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	⑨					●	オ	右下肺炎癒痕	
409	女	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②					●	オ		
410	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②			●	●	●	ウ		
411	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし	●					ア		
412	男	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②疑、⑨	●		●			ア	心陰影拡大、左肺上野炎症性癒痕	
413	女	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	なし			●			ウ		
414	男	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②、⑨					●	オ	左肺舌区癒痕影	
415	女	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	②、⑨	●		●	●	●	ア	左皮下異物	
416	女	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	/	○	左②、右②疑					●	オ		

症例番号	性別	生年(西暦)	07年度所見	08年度所見	09年度所見	10年度所見の変化	10年度CT	最新の所見	ア. 直接 職業あり	イ. 間接 職業あり	ウ. 家庭 内ばく露 あり	エ. 立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ. その他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度の 受診	
417	女	1950代	㊹	なし	㊹	軽減	○	なし					●	オ			
418	女	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	△	○	㊲			●				ウ		
419	男	1920代	受診せず	受診せず	受診せず	△	○	㊲疑						●	オ		
420	女	1920代	受診せず	受診せず	受診せず	△	○	㊹						●	オ	両側多発すりガラス陰影	
421	女	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	△	○	なし						●	オ		
422	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	△	○	㊹						●	オ	脂肪肝	
423	女	1920代	受診せず	受診せず	受診せず	△	○	㊲、㊹			●			●	ウ	左肋横角鈍化、左肺炎炎症性瘢痕	
424	女	1960代	受診せず	受診せず	受診せず	△	○	㊹						●	オ	炎症性瘢痕(右肺下葉)	
425	男	1930代	受診せず	受診せず	受診せず	△	○	㊹				●			エ	右肺門リンパ節石灰化、右肺中葉石灰化、左横隔膜挙上	
426	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	△	○	㊹	●						ア	右肺尖部腫瘤陰影	
427	女	1930代	㊲、 ㊳、㊴	受診せず	受診せず	軽減	○	㊲、㊹			●				ウ	右肺中葉・左肺舌区浸潤影	
428	男	1960代	なし	受診せず	受診せず	新所見	○	㊲	●						ア		
429	男	1930代	㊲、 ㊳、㊴	受診せず	受診せず	軽減	○	㊲、㊹							●	オ	右肺上葉・左肺下葉炎症性瘢痕、気腫性変化
430	男	1940代	㊲、㊹	㊲㊹	受診せず	軽減	○	㊲疑、㊹				●		●	エ	右肋横角鈍化、右下肺胸膜肥厚	
431	男	1960代	㊹	受診せず	受診せず	不変	○	㊹							●	オ	左肺下葉炎症性瘢痕
432	女	1930代	㊲、㊹	㊲	㊲	不変	○	㊲			●			●	ウ		
433	女	1950代	㊲	㊲	㊲	不変	○	㊲			●			●	ウ		
434	男	1920代	㊲、 ㊳、 ㊴、 ㊵、 ㊶	㊲、㊳	㊲、㊳	新所見	○	㊲、㊹			●				●	ウ	右肺S6のう胞を伴うすりガラス陰影、右リンパ節腫大の疑い
435	男	1930代	㊲、㊹	㊲	㊲	不変	○	㊲							●	オ	
436	女	1940代	㊲、 ㊳、㊴	㊲、㊳	㊲、㊳	不変	○	㊲、㊹							●	オ	左右肺小結節、神経鞘腫
437	女	1940代	㊳、㊴	㊹	㊹	不変	○	㊹			●				ウ	左肺炎炎症性変化	
438	男	1940代	㊹	㊹	㊹	不変	○	㊹			●				ウ	すりガラス陰影	
439	女	1940代	㊲	受診せず	受診せず	不変	○	㊲			●	●			ウ		
440	女	1940代	㊲	受診せず	受診せず	不変	○	㊲							●	オ	
441	男	1930代	㊲、㊹	受診せず	受診せず	軽減	○	㊲疑、㊹	●						●	ア	肝のう胞
442	男	1950代	㊳、 ㊴、 ㊵	㊹	㊲疑、 ㊳	軽減	○	㊲疑							●	オ	
443	女	1950代	受診せず	㊲、㊳	受診せず	軽減	○	㊲		●					●	イ	
444	男	1950代	㊲、㊳	受診せず	受診せず	軽減	○	㊲疑、 ㊳疑、㊹				●		●	エ	左肺下野小結節影の疑い、左肺下葉石灰化	
445	女	1950代	なし	なし	なし	不変	○	なし			●			●	ウ		
446	男	1940代	受診せず	受診せず	受診せず	△	○	なし				●		●	エ		
447	女	1950代	受診せず	受診せず	受診せず	△	○	なし						●	オ		
448	女	1940代	㊳	㊳、㊴	受診せず	軽減	○	㊹			●				●	ウ	右肺S6・S8の小結節影、左肺舌区の炎症性瘢痕

症例 番号	性別	生年 (西暦)	07年度 所見	08年度 所見	09年度 所見	10年度 所見の 変化	10年 度 CT	最新の 所見	ア. 直接 職歴あり	イ. 間接 職歴あり	ウ. 家庭 内ばく露 あり	エ. 立 入・屋内 環境ばく 露あり	オ. その 他	ばく露 歴分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度 の受診
449	男	1940代	②	②	②	不変	○	②			●	●	●	ウ		
450	男	1950代	②、⑦	②、⑨	受診せず	軽減	—	②					●	オ		
451	男	1930代	⑨	なし	受診せず	新所見	○	⑨				●		エ	網状影、肝のう胞	
452	女	1930代	②	受診せず	受診せず	新所見	○	②、⑨			●			ウ	右肺小結節	
453	男	1920代	②、⑨	⑤、 ⑤、 ⑦、⑨	②疑、 ⑤、⑨	新所見	○	⑤、⑦、⑨					●	オ	左肺尖のう胞、両肺 気腫性変化	
454	女	1950代	⑤、⑨	受診せず	受診せず	軽減	○	⑨			●	●		ウ	左下野野線状影、右 肺中葉炎症癒痕、左 腎結石、左肺間質影 疑い	
455	男	1940代	②	受診せず	受診せず	不変	○	②			●		●	ウ		
456	男	1930代	⑤、⑨	⑤、⑨	⑨	軽減	—	なし		●			●	イ		

A-2表:2010年度受診者一覧表:7名(A-1表以外の者)

症例 番号	性別	生年 (西暦)	07年度 所見	08年度 所見	09年度 所見	10年度 所見の 変化	10年度 CT	最新の 所見	ア.直 接職 歴あり	イ.間 接職 歴あり	ウ.家 庭内 ばく 露あり	エ.立 入・屋 内環 境ばく 露あり	オ.そ の他	ばく露 歴 分類	備考 (その他所見、 特記事項等)	次年度 の受診
1	男	1930代	②、⑨	受診せず	受診せず	軽減	○	②			●		●	ウ		
2	男	1960代	受診せず	⑦、⑨	受診せず	軽減	○	なし					●	オ		
3	女	1960代	⑨	⑨	なし	新所見	○	⑨	●				●	ア	右肺中葉・左肺下葉 (横隔膜近傍)に小 結節影、縦隔リンパ 節腫大	
4	男	1960代	⑨	なし	なし	不変	○	なし					●	オ		
5	女	1960代	⑨	⑨	⑨	不変	○	⑨					●	オ	左肺尖部癒痕	
6	男	1950代	②、⑨	受診せず	②、③ 疑、⑨	軽減	○	⑨		●	●		●	イ	右肺横隔膜挙上、 両肺炎炎症性癒 痕、胆石	
7	男	1920代	受診せず	⑨	なし	新所見	○	②					●	オ		

A表の注釈

注1:所見については、胸部X線検査および胸部CT検査の結果を踏まえ、石綿ばく露に関連する可能性がある①～⑧及びその他の所見⑨(石綿ばく露に関連しない)を確認する(重複含む)。

- ① 胸水貯留
- ② 胸膜プラーク(限局性の胸膜肥厚斑)
- ③ びまん性胸膜肥厚
- ④ 胸膜腫瘍(中皮腫)疑い
- ⑤ 肺野の間質影
- ⑤' 胸膜下曲線様陰影
- ⑥ 円形無気肺
- ⑦ 肺野の腫瘤状陰影(肺がん等)
- ⑧ リンパ節の腫大
- ⑨ その他の所見

※④胸膜腫瘍(中皮腫)疑いは、2006～2008年度に「胸膜腫瘍の疑い」とし、2009年度に「中皮腫」、2010年度に「胸膜腫瘍(中皮腫)疑い」としている。

※⑦肺野の腫瘤状陰影(肺がん等)は、2006～2008年度に「肺野の腫瘤状陰影」とし、2009年度に「肺がん」、2010年度に「肺野の腫瘤状陰影(肺がん等)」としている。

※⑤' 胸膜下曲線様陰影は、2009年度から、「⑤肺野の間質影」に統一している。

※「③びまん性胸膜肥厚」や「⑤肺野の間質影」の所見が見られ、石綿以外の原因である可能性が高いと判断した場合は、「⑨その他所見」と変更している。

※2009年度から所見が疑いとされた場合は所見番号の後ろに「疑」を記載している。

注2:ばく露歴については、該当するものすべて●を記入(ア～オは重複可)

- ア. 直接石綿を取り扱っていた職歴がある者
- イ. 直接ではないが、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者
- ウ. 家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者で作業具を家庭内に持ち帰ることなどによる石綿ばく露の可能性が考えられる者
- エ. 職域以外で石綿取扱い施設や吹き付け石綿の事務室等に立ち入り経験がある者
- オ. 上記ア～エ以外のばく露の可能性が特定できないもの(居住地や学校・職場等の周辺に石綿取扱い施設がある場合も含む)

(「具体的なばく露歴」の記入例)

例1 幼少期(S25-27頃)に石綿工場で遊んだ経験があり、父が石綿工場で勤務していた。 → ウとエ

例2 石綿工場近くの〇〇小学校にS30-35の6年間通学 → オ

例3 S28-40の間、設備の点検のため石綿工場に定期的に入出入りしていた。かつ、住居が石綿工場に近接(S26-50に〇〇1丁目に居住)していた。 → イとオ
イとエの分類が紛らわしいものの例: 業務上で吹き付け石綿がある場所や石綿工場の敷地内に立入る場合は、原則「イ」とする。

ただし、作業現場以外(事務室・当直室・食堂など)への立入に限っては「エ」とする。

注3:ばく露歴分類については、各事案のばく露要因を1つに分類するもの。なお、複数のばく露歴がある者については、基本的には下記に従うものとする。

- ア. 直接石綿を取り扱っていた職歴がある者
- イ. 上記アに該当せず、直接ではないが、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者
- ウ. 上記ア～イに該当せず、家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者で作業具を家庭内に持ち帰ることなどによる石綿ばく露の可能性が考えられる者
- エ. 上記ア～ウに該当せず、職域以外で石綿取扱い施設や吹き付け石綿の事務室等に立ち入り経験がある者
- オ. 上記ア～エに該当しないもの

上記以外による分類が適当であると考えられる場合や判断が困難な場合には、症例番号と具体的な内容を記入し、具体的な分類については環境省と相談することとする。

注4:備考欄については、他所見、精密検査、その他特記事項等を記入する。

注5:次年度を受診の欄については、次年度の検査を行わない場合にその理由を記入する。

具体的には、医療の必要があるとされた者については、その旨を(可能であれば疾患の名称もあわせて)記入するとともに、労災、救済法の認定や申請中である場合にはその旨を記入する。